

令和7（2025）年度 第2回八尾市子ども・子育て会議議事概要

日時：令和8（2026）年3月18日（水）19時から

場所：八尾市立青少年センター集会室

出席者：委員13名、事務局（関係課含む）

開 会

案 件

（1）「こどもまんなか社会」の実現に向けた取り組みについて

事務局から資料に基づき報告等

資料1 「こどもまんなか社会」の実現に向けた取り組みについて

（委 員）

- ・ 資料1のウェブサイトのこどものこえ投稿数は、本当に子ども達からの声が届いているのか。なりすまし等の子ども以外からの声は入っていないのか。それについてどのように精査されているのかお聞きしたい。

（事務局）

- ・ 回答は無記名であるが、回答項目に各年齢層を選択する項目を入れている。年齢層が小学生となっているのに、難しい内容の投稿をしているものもあるが、こどもの声として受け取っている。学校のGIGAスクール端末からつながるようにしており、こどもが答えやすく、わかりやすい、複雑でない入力フォームを設置している。

（委 員）

- ・ こどもまんなか実現事業について、「こどもの声を聴く」という事に対して市が積極的に施策に反映していると感じた。地域との調整は難しいと思うが、実現事業で提案した公園が現実にできたとき、みんなの声から公園がこうなったよと伝えられたらよいと思った。子どもたちが今後、公園のルール作りとかに参画していけたら本当にいいことだなと感じた。
- ・ 実現事業の参加者が審議会委員に公募されたとの記載があるが、どちらの審議会の委員になったのか教えて欲しい。

（事務局）

- ・ 参加者が審議会委員につながったということについては、まだ決定ではなく応募があったという段階である。環境部所管の審議会、そしてこの子ども・子育て会議に応募があったと確認している。

- ・ ボール遊びの公園整備については、資料1のP.4が提案されたボール遊びのまちづくり企画書である。成果報告会には多くの委員の皆様に参加していただき、その場で見ていただいたところである。まちづくり企画書の活用であるが、公園整備の事業担当課にも共有したので、今後の公園整備に活用される予定である。

(委員)

- ・ 報告会に参加したがとても楽しかった。当初、参加者が集まらなくて困ったとの話もあったが、非常に面白い事業であると感じた。
- ・ いろんな子と接する中で子どもたちはいろんな力を持っていることを感じるが、いざ、その力を発揮しようとしても機会が少ないと思う。そういう子たちの中には、このような施策に興味を持つ子がいるので、どうすればこういった機会に繋げていけるのか、教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 事業は今年度事業であるが、これを終わりとせず、若者チャレンジは今後も応援していく予定である。現在、既存事業の見直しをしており、若者が一歩踏み出せる機会の提供ができたかと考えている。
- ・ 市の取り組みと子どもたちをどう繋げていくかについては、広報媒体となる市政日より、市のHP、最近ではアプリの「やおっぷ」やSNSを使用して発信している。若者がすぐキャッチできるかと言われると難しい部分はあるが、それらを今後も強化しつつ、効果的な情報発信を行っていききたい。
- ・ こどもまんなか社会実現事業は今年度予算を取り、パイロット事業として行ったものである。委員の皆様もこどもの意見を聴く場面はたくさんあると思われるが、この事業を通じて、こどもの意見を聴く仕組みを作っていきたい。そして、庁内や地域団体に共有しこどもの意見を聴く取り組みを広げていきたいと考えている。

(委員)

- ・ 私もワークショップに参加させていただき、本当に素晴らしい若者たちであった。正解のない問いに対して一生懸命考えておられ、ボールの貸出や今ある居場所を知ってもらう等とても大事なキーワードが出ていた。
- ・ 地域の中でそれらに賛同してくれる方がいるかどうか、地域資源をよく知っている社会福祉協議会、自治会やコミュニティーワーカーとの方々とあれこれ議論してもいいのではないかと想像が掻き立てられる体験をさせてもらい、とても良い事業であった。
- ・ 参加した大学生が審議会の公募委員に立候補したことは、大変成果のある素敵な事業だったと感じる。自分も社会に働きかける力があるとか、社会を作っていく当事者になると言うのは就学前や小学校期からの積み重ねが大事だと思う。学校でも特別活動という

時間があるので、小学校期から子どもの可能性を伸ばす取り組みをやっていただきたい。

(事務局)

- ・ 現在、学校もこどもの声をしっかり聴くという点で、非認知能力を高めるというところで今年度各学校の取り組みの中に児童会や生徒会などの子どもが主体的に学校の課題等を考え、例えば校則が変わったり、遅刻が減ったり、様々な事例を今出している。

(委員)

- ・ 大阪府で他の委員をしているが、公園に関する意見は多い。八尾市のようにフィードバックまでは考えていない自治体もある。今後も積極的に補助金等を活用して企画が可視化されるような形で推進していただきたい。

(2) 第三期子ども・子育て支援事業計画の代用計画について（乳児等通園支援）

事務局から資料に基づき報告等

資料2	第三期八尾市子ども・子育て支援事業計画の代用計画について
資料3	第三期市町村子ども・子育て支援事業計画 代用計画（案）
参考資料1	乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）代用計画

(委員)

- ・ こども誰でも通園制度は、生後6か月になった時点から利用できるのか。例えば、4月5日に6か月を迎える子であれば、4月5日から利用できるという認識でよいか。他市において、誕生日ではなく誕生月で利用基準を満たさないのは不公平だという声がある。

(事務局)

- ・ そのとおりである。

(委員)

- ・ **参考資料1**にある量の見込みに令和7年度85人、令和8年に166人、以降の3年間も166人のままである。内訳の記載はあるが、数値の積算根拠等が分からないので教えてください。

(事務局)

- ・ 数値については、国の示す積算方法に基づき算出している。また、令和7年度の85人は、10月から事業開始のため、半年分で85としている。就学前児童数はこども計画の数値を参考に積算基準に沿って算出したものである。

(委員)

- ・ この制度では、1か月毎に利用時間を定めているのか。

(事務局)

- ・ こども1人、1か月10時間が利用上限である。
- ・ 今年3月4日時点で制度を利用するための認定を取得された方が135人で、公立園1園と私立園4園で実施する中で、利用希望者はスムーズに利用していただいている状況である。利用者数の算出に用いる利用率は実際の認定数を基に積算しているので、現状に限りなく即した数字であると考えている。
- ・ 制度を利用された方についてであるが、令和8年1月末の時点で、私立園で延べ人数64人となっている。

(委員)

- ・ 延べ人数とは同じ人が何回も利用された回数ということか。

(事務局)

- ・ 延べは同じ人の利用回数が含まれる。実利用人数としては27人である。

(委員)

- ・ 令和8年度～令和11年度の数値が同じだが、令和8年度時点で受入体制は確保できているのか。

(事務局)

- ・ 公立園での実施を合わせると概ね確保できている。しかし、就学前教育・保育施設と同様に利用者が希望する施設での利用が出来るよう、地域全体でのニーズを把握して今後考えていくことになる。

(委員)

- ・ 引き続き制度を実施する園を募集していくということか。

(事務局)

- ・ 今後計画値と利用実績や市の体制を踏まえて検討していく。

(3) 特定教育・保育施設等の利用定員について

事務局から資料に基づき報告等

資料4	令和8年度 特定教育・保育施設の利用提案（案）
資料5	就学前施設等の整備について
参考資料2	子ども・子育て支援新制度における利用定員について

(委員)

- ・ SNS等で八尾市の「保育園落ちた」みたいな投稿を見ることがある。そういう声が目立ってしまっているが、どのくらいの方が第一希望に漏れたのか。現在決まっていない方がいるのか現状を教えてください。

(事務局)

- ・ 今まさに1次選考、2次選考を決定したところで、それでも決まらなかった方を対象に随時選考を行っている状況である。現状の確定数値の提示はできないが、1月末に決定して通知の発送した分については入所承諾が1,193人、同時点での入所保留が310人、その後の2次選考後に承諾いただいた方が122人となっている。ただ、1次選考のあとに申し込まれた方や申し込みを取り下げられる方もいる。

(委員)

- ・ 一般的に1歳児、2歳児の入園が難しいと感じている。来年度、再来年度に2つの園の閉園が予定され、40名の0～2歳児の枠が少なくなってしまうと感じている。閉園理由も保育士がいなくなるとか利用者が少ないなど閉園する理由もあるかと思うが、待機児童等の課題は今後ないのか。

(事務局)

- ・ 低年齢児の入所が課題であることの認識は我々も持っており、現在の子ども・子育て支援事業計画を進めるにあたっての課題の1つとして挙げている。確保方策については、既存の園の改修や給食設備の拡充等により、1号の教育枠を保育枠に転換していく施策を掲げて実施している。資料5に記載のある開園予定がそれにあたる。引き続き確保方策を推進していく。

(4) 保育提供体制の確保のための実施計画について

事務局から資料に基づき報告等

資料6 保育提供体制の確保のための実施計画について

(委員)

- ・ **資料6-2**について、就学前児童のうち保育所の申込率が68%と記載されているが、認定こども園に対する申し込みか。認可外のこども園等は対象外ということか。通常、就学前は保育所に通うものだと思っていたが、約7割という数字が衝撃であった。

(事務局)

- ・ こちらは八尾市こども計画の教育保育の量の見込みから算出している数字を基に作成しているが、認可園がベースとなり、認可外は入っていない。

(委員)

- ・ 保育士宿舎借り上げ支援事業は独身の方が対象と思うのだが、結婚されて退職される方も多と思うので、そういった方に対して退職せず続けて勤務いただくような財政支援というものは存在するのか。

(事務局)

- ・ 保育士宿舎借り上げ支援事業については既婚、未婚関係なく、施設で勤務される保育士のために、運営する法人が宿舎を借り上げることにに対して支援する事業となる。

(委員)

- ・ 園を運営する側からすると非常にありがたい制度である。人を安定して確保できない中、この様な家賃補助があると遠方にお住まいの保育士の方が、八尾市の園を指定されるきっかけにつながっている。一方、この制度が無くなると他市へ流れる可能性がある。各市町村の対応はそれぞれ異なるが、運営する法人間での保育士の取り合いになっている。各市町村において差はあるが、積極的に八尾市に保育士が集まる施策としてこの制度は、しっかりと行っていただきたい。

(委員)

- ・ 保育士確保は本当に深刻な課題だと思う。組合にも保育士からのお困りの声がたくさん届いており、他市との競争であると感じている。
- ・ 保育士の方に八尾市で働きたいと思ってもらうためには給与等の面があると思う。保育士宿舎借り上げ支援事業も一つのポイントであると感じる。もう一つは、働く中での保育士自身の教育が考えられるが、八尾市の中でアピールポイントとして何かつかんでおられることがあったら教えて欲しい。

(委員)

- ・ 保護者として子どもを園に通わせている。私自身は教員だが、学校教育が変わらないといけないなと思ったのが、園の先生方との関りだった。園のカリキュラムは決まっているが子どもの主体を大事にしてくれて子どもの声を聴き、生活発表会を開いてくださっている。運動会も子どもがやりたいことをどうやればうまくできるかを、先生たちもすごく悩んでいるとおっしゃっていたが、子ども一人ひとりの力を引き出すように努力されていて、日々の関りが素敵な先生たちだった。ただ、研修等は、夜に実施したり大変そうだったので勤務条件など見直してあげてほしいと思う。

(委員)

- ・ 最近色々な国の方が八尾に住まれており、多文化共生という点が今後より大切になってくると思う。介護分野でも海外から来ていただいており、保育士も今後そういった事を考えないといけないと思う。この多文化共生の対応というのは、現在どのようになっているのか、今後どういうふうに対応していくのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 私立園については翻訳機の導入費用の補助など、外国人の方に限らず障がい児の子どもも含めてインクルーシブ保育を進めている。
- ・ 公立認定こども園はそれぞれ各地域にあるが、外国籍の方が多地域もある。特にそのような地域に関しては、家庭支援推進のための保育教諭を配置し、日々の困りごと等を含めて支援をさせてもらっているという状況である。

(委員)

- ・ 今後も続けていただけると考えてよいのか。

(事務局)

- ・ 自治体の予算があるので、基本的には年度毎の計画実施ということになるが、令和8年度も予算措置しており継続していく。

(委員)

- ・ 八尾市が保育士確保ということで、新しく雇った3年間、10万円を1年ごとに出していただいているということはすごくありがたいと思っている。
- ・ 多文化という点で園にはベトナム国籍、中国籍、韓国・朝鮮籍の方といろいろな方がおられる。ベトナムの方は特に日本語がわからない状態で入ってこられる方が多いので、翻訳機の補助は本当にありがたい。
- ・ 国際交流センターからの出張で講座も行っていただいており、八尾市の取り組みには安

心している。

(会 長)

- ・ 案件3・4について、会議で承認ということによろしいか。(委員承認)
(5) その他(各委員任期最後のメッセージ)

(会 長)

- ・ 委員任期は2年ですが、本日が、最後の会議になっておりますので委員の皆さんから順番に一言ずつお言葉をいただけたらと思います。

(各委員)

- ・ 2年間ありがとうございました。2月7日の実現事業報告会へは本当に行きたかったのですが、この日は、実はドーンセンターでこども家庭庁の参事官をお呼びして、私たちも子ども権利のフォーラムをしていました。そこで社会も変わってきたなと実感するほど、このテーマでこれだけの方が集まるのかというほどになっていました。今日1つ残念だったのは、この会議体(こどもまんなか社会実現事業)が、令和7年度は予算を確保されて実施した事業であって、次年度以降は八尾市内の各団体等が担っていくとの事であったが、こども会議体は何とかどこかで形にさせていただきたいと私は思いますので、一緒にまた考えていけたらと思います。
- ・ 今日小学校の卒業式の日だったのですが、近所の小学校に来賓で参加させていただいて、子どもたちが一人ひとり夢を語る場がありました。そこでいろんな事やいろんな職業に就きたいという思いを発表していました。他の国籍の子たちもその国の母国語で発表されているのを聞いてすごいなと思いました。先生方は日々の成長を見ておられて、6年間はすごく長いし、成長をすごく感じられると思います。そこに関わってこられた先生方の日々の努力に対して敬意を表します。
- ・ 私もこの会議に出させていただいて、子ども子育て支援につながる居場所づくりに関わってきました。昨年の9月から子どもたちの居場所づくりで月に1回あずかっているのですが、大学生、教育大学から5、6人(ボランティアとして)来てくださっています。私も今日卒業式に来賓として参加させていただいたのですが、居場所にずっと来ていて、今日卒業を迎えた子が「中学校になったらまた友達連れてくるね」と言ってもらえたのがすごくうれしかったです。居場所には小学生から高校生まで居るのですが、高校生の子から「すごく数学ができるようになりました」「成績が上がりました」との声もあります。幼児だけじゃなくて小中高の子どもさんたちがよい場所であると感じて、良い方向に繋がるように頑張りたいと思います。
- ・ 私は、この会議に委員として参加させてもらう前、こんなに子どもや子育てのことをみなさんが考えて活動されていることを全然知らなかったです。私も知らなかったけ

どたぶん多くの人が、これだけ皆さんが頑張っておられることを知らないと思うのですね。だから、例えば公務員に対して強く当たる方もいますが、もっとたくさんの人に皆さんがこれだけ頑張っていることを知ってもらいたいなという思いが強いです。こういう取り組みを今後も続けて頂いて、八尾が日本で一番、子育てのしやすい、そういった町になればいいなと思っています。来年度、またこの会議に参加させてもらえるかどうかはわかりませんが、そのときはまたご協力させていただきたいと思います。

- 私たちの子育ての時代とは打って変わって、何段も何段もいろんな（子育て）支援があるということで、本当に八尾市には頑張っていたらいいなというのをこの会議に参加したことで身に染みてわかりました。やはり私たちのような市民が行政の方たちと一緒にに関わり、現場の先生方とかも一緒に関わるっていうことは大事なことだになっていうのを改めて痛感しております。こどもはあとサポーターという不登校の方々を支援するサポート事業があるのですが、今日ここで交流会があって参加したのですが、最初は子どもたちも「なんだこのお婆さん」というふうな感じだったのですが、回を重ねるごとにある程度顔を知ってもらい、挨拶もしてくれるようになりました。町であったときも子どもたちが声をかけてくれるようになったとサポーターからの声も聞きます。少しの力ですけども継続して地域で子育てをしていくということは大切なことなんだなというのをつくづく今日の交流会でも学びました。それと、これだけ交流会や不登校生等の居場所づくりなど、私たちの時代と違っていろんな素晴らしい支援がいっぱいあるんですね、令和8年度は翠翔高校で新しい取り組みをされるということもありますので、もっともっと周知していただくということが必要ではないかなと感じたところです。
- 初めてこの会議に出席して本当にいろんな子どもたちのために施策があるんだなというのを知り感動しました。計画のところについては、現場から言いますと、八尾には必要な福祉はたくさん用意されているけども、必要とする人たちが実際繋がっていないなあとというもどかしさを今も感じています。そこにはどういう風な工夫をされているのかと言うことを、当初私が聞いたときに、重なったというところをお答えいただいたときに大変心強く思いました。やはり支援を必要としている方というのは、心のエネルギーが下がっていると思います。そして不安も高いです。八尾市はたくさん居場所づくりをされている方がいるという事も、ここ2年間で非常に勉強になったのですが、やっぱりここに繋がったらいいなと思う方が繋がるためには知らせるだけではいけません。こういった場所があるよということでその方に直接届け、そして一度行ってみる、一緒に行ってみようかと。それで初めて行こうかなって思ってもらい、行ってみたあとに、合わないなというときには使う必要はないのですが、どうして使えなかったのか。どんなところが足りなかったのかなということを掴んで初めて次の事業に活かされていくのかなって、ちょっと気が遠くなりますが、本当に誰一人取り

残さないというところでは、そこを本気で掴みに行っていただければ、本当に事業も良くなっていくし、繋がっていくのではないかなと思います。そのためには、ここに集まっておられる方の知っている現場の声を届けて、八尾の施策と繋げる場なのかなと言うことをこの2年間を通じて思いました。ここでやっておられることを私の繋がっている現場ではしっかり、リアルに伝えて広げていきたいなというふうに思います。大変勉強になりましたし、希望も感じています。そんな急に出来るものでないというふうにも思いますけれども、諦めず現場の声をつなげていくということを大切にさせていただきたいです。

- 直接、保育に携わる中で非常に大事な会議なのですが、この会議で1番大事な事は種をまいていくというか、これから先10年、20年後に向けてどのように種をまいていくかということと、どう育てていくのかという仕組みの両方をやっていかないといけない、現状も見ないといけないという事で非常に難しく、これからも皆さんと進めていけたらと思いました。最近うちの園では盲導犬とその飼い主の方に来園してもらい触れあう場を設けたのですが、子ども達にはこの盲導犬は今一生懸命お仕事しているんだよと伝えたり、障がいについても理解、受け入れたりする機会としています。子ども達の心はとても広くて、受入れることで募金などにも繋げていかないと話しをしています。こういった形で子ども達には多様性についても知ってもらい、いろいろな世界があることを学んでいます。
- 私の働いている学童保育の子どもがワークショップ（こどもまんなか社会実現事業）に参加させていていただいたんです。その時に、参加した子ども達だけじゃなくて、地域のお子さんも一緒に入って一緒にワークショップをさせていただきました。子ども達はその中でボール遊びができたことで楽しかったのですが、その中で出た意見として小さい子ども（幼児）がいたら危ないとかっていうのを、次に違う公園に遊びにいったときに「あの時に言っていたことってこれやな」とうふうに子ども達はおぼえているし、それを考えて遊んでいる現状はワークショップを開いてもらったことで根付いているというところが、今回すごく実感できたと思いました。このままで終わらすじゃなくて、今後そういった取り組みを続けていくことと、実現して行ってほしいと強く望みますので、今後ともよろしくお願いします。
- 私立幼稚園というのが八尾には7つございます。私がいる地区というのは子どもが少なくなってきていて、今日も卒業式に出席したのですけれども21人の卒業生です。また、今年4月にはいつてくる1年生が19人とお聞きしています。少子化が進んでいますので、八尾市の子どもが増えるようにもっともっとこれらのような仕組みを広げていただければ、八尾市に住まれる方も増えると期待しておりますので、これからもよろしくお願いたします。
- 学校現場で働いている者として、子どもをどまんなかにして学校経営をさせていただいております。このような形で会議体があることを全然知らなくて、行政の方々が、

子ども達のことを必死に考えていただいているということを知って、本当にうれしく思っています。今日もいろいろ話があったのですが、どんどん多様な社会になっている中で、障がいのある子、支援を要する子、日本語指導が必要な子、医療ケアが必要な子、いじめられている子、不登校の子、そしてヤングケアラーの子など様々な子がいます。

学校としては、誰一人取り残さない学校教育ということで、こどもをど真ん中にして経営しているのですが、やはり限界な部分もあって専門家を活用したり、または関係機関を繋いでセーフティネットを子どもたちの為に実施しているところです。まだまだ、十分でないところもあると思われまますので、そのあたりを行政の力も引き続きお借りしながら、子どもをど真ん中に据えた、まちづくりをやっていってもらえたらと思います。今日たまたま校長会がございまして、エレベーターに乗っていたら「子どもをど真ん中においた幸せを感じるまちづくり」みたいなキャッチフレーズの文章を呼んだ記憶がございまして。是非、そういったまちづくりが推進されることを願っております。

- ・ 2年間ありがとうございました。4年前に審議会に申し込んだときは、母親のこえを上げないと変わらないと思ってやってみようと思ったのですが、実際にこの会議に参加させていただいたところ、たくさんの方に子どもと子育てを支えて下さっていることをとても感じる会であったと思いました。本当にいつもありがとうございます。

夏に子どもが「こども会議」という映画の上映会をしたいと言って、委員の皆さんの協力を得て土曜日にもかかわらず開催していただきました。ありがとうございました。また、オフィシャルな場じゃないプライベートでもみなさんよろしくお願いいいたします。

- ・ 今日みなさんのお話を伺いまして、当事者の思いを届けるということが大事だなということと、本日4人委員の方が欠席されているのですが、委員の方々の意見をメッセージとして次の審議会委員の方に渡してバトンタッチしたいなと思います。ありがとうございました。
- ・ 委員の皆さんがそれぞれの立場で子ども子育て支援をして下さっているのだな、ということがわかりました。八尾市ってそういう点がたくさんあって、それを繋ぐのが行政の役目だと思うのですね。網の目がより細くなればなるほど取りこぼしが減って、このまま進んでくれたらいいなと思いました。

閉 会